



## ペットがいると災害時の危険が高まる？

Nature News Service 2001.04.19

洪水の恐れがあるために住居からの避難を命じられたカリフォルニア州の住民を調べたところ、ペットの数が多し世帯ほど避難命令を無視する割合が高いという結果が出ました。

ペットを連れて避難することは手間がかかるため飼い主はなかなか避難しようとせず、ギリギリまで住居に留まってから、あわてて避難するため、ペットが置き去りになり、危険にさらされてしまうことになります。そうすると、ペットの飼い主が、ペットを救うためにあとから立入禁止区域に忍び込むことになってしまいます。

一部の住民が避難命令に従わないことや、ペットが避難から取り残されること、あるいは、残してきたペットの救出を住民が試みることなどは、災害時に共通の問題で、避難住民が立ち入り禁止区域に侵入した最も大きな理由のひとつは、ペットの救出だといわれています。この報告では、ペットの避難体制を整えることが、災害時の住民の避難率の向上と安全保障に繋がるものと考えられると報告されています。

また、ペットを避難させなかったために、ペットが野生化して病気にかかるなどの問題も一方では発生していますが、ペットの避難をさせなかった理由としては、住民が自分たちの避難が長く続くと思っていたことが、ペットは避難しなくても安全だろうと考えていたことの2点があげられました。

さらに、ペットを多数飼育していることや猫を移送するためのキャリアを準備していないことが、ペットの避難率を下げる要因としてあげられ、災害時のペットの避難状況を改善するためには、平常時の備えが最も重要だとのことでした。

たとえば、東京で関東大震災規模の地震が発生した場合、20万～30万匹のペットが被災するというデータがあります<sup>2</sup>。

ペットを連れて逃げた場合でもそのペットをどうやって飼育するのかという問題も発生しますが、三宅島の噴火の際を例にとると、関東の獣医師会がこの対応に当たり、犬38頭・猫120頭・ハムスター13・うさぎ7・チャボ15・ニワトリ3、プレーリードック1・ホロホロ鳥<sup>3</sup>1を預かったそうです。健康管理として、動物ごとにカルテを作成して、シャンプー、健康診断、ワクチン接種、ウィルス検査などを行い、飼い主との面会は自由、飼育施設は飼い主の避難場所を考慮して選定しているそうです。また、有珠山噴火の際は動物用シェルターで飼育したそうですが、環境が悪く、体調を壊す動物が多かったため、三宅島噴火の際は基本的に、動物病院とペットホテルを使用し、動物専用のエアコンも行政の支援で各施設に合計で数十台設置したそうです。ちなみに、三宅島噴火は、日本で初めて行政が被災動物対応に介入した例となりました。

<sup>2</sup> [http://www.rescuenow.net/today\\_line/topnews/0104/010403pet.html](http://www.rescuenow.net/today_line/topnews/0104/010403pet.html)

<sup>3</sup> ほろほろ-ちょう【ほろほろ鳥・珠鶏】

キジ目キジ科の鳥。全長約40センチメートル。頭頸部は裸出し、頭頂に赤い突起があり、頸部に赤い肉垂れがある。全身暗灰色あるいは淡青色で多数の小白斑があるものと、全身灰白色のものほか数亜種がある。アフリカ西部原産。肉用・愛玩用として家畜化されている。